

## ハブと大島つむぎ

奄美市立名瀬小学校 三年 丸田 留加

昔々、奄美の森に、真っ白なへびがすんでいました。

奄美の森には、友だちがいっぱいいます。ルリカケスねえさんや、イシカワガエルくん。アカヒゲおじさんや、リュウキユウアユちゃん。歌を歌ったり、およいだり、みんな仲よく遊んでいました。

ある日、奄美の森でパーティーを開くことにしました。みんなこのパーティーをとてもし楽しんでしています。

でも、へびさんだけは、ちょっと元気がありません。へびさんは、みんなを見て、つぶやきました。

「あーあ。みんなはいいなあ。そんなすてきな洋服が着られるなんて。私もみんなと同じようなきれいな洋服がほしいなあ。」

ちょうどその時、ルリカケスねえさんがやって来ました。ルリカケスねえさんは、言いました。

「こんにちは、へびさん。どうしたの？元気がないよ。」

へびさんはルリカケスねえさんに言いました。「そんなにすてきな洋服を着ているルリカケスさ

んが、うらやましいよ。私なんて、真っ白なんでもん。」

「じゃあ、へびさん、これを着てみて。」と、言つて、自分の洋服を着せてくれました。

「まあステキ！へびさん。これから私の洋服を着ていいわよ。」

へびさんは、青とオレンジのオシャレなお洋服が、大好きでしたが、ルリカケスねえさんの方があうと思つたので、かえすことにしました。

次に、イシカワガエルくんがやってきました。「こんにちは。へびさんどうしたの？元気がないゲコ。」

へびさんは言いました。

「イシカワガエルさん、どこで、そんなに、ピカピカ光るお洋服を買つたの？」

「これ？これは生まれたときから持っているんだよ。よかつたら、着てみてよ。きみならきっとにあうはずゲコ。」

「ステキ！こんなステキなの見たことないゲコ。」

「そうかな？私には、ちょっと、ハテすぎると思うんだ。」

と思つたので、またお洋服は、かえすことにしました。次に会つたのは、アカヒゲおじさんです。

「ウガミンショウウラ。白へびさん。元気がないよ。」

「あ、アカヒゲおじさん、こんにちは。今日はちょっと元気がないんです。」

「又ガダリヨンカイ？」

とアカヒゲおじさんは、心配そうに言いました。

「アカヒゲおじさんは、いつもステキなお洋服で、いいですね。」

と、へびさんが言うと、

「そう？これは昔から着ていたんだよ。ちょっと着てみるかい。」

と言って、へびさんに、お洋服をかしてくれました。でも、へびさんは、この洋服も、アカヒゲおじさんの

ほうが、にあうと思ひ、かえすことにしました。また、へびさんは、真っ白になりました。

「わたしもいつか、自分に合う洋服が、ほしいなあ。」と思ひながら帰って行きました。

いよいよパーティーの日がやって来ました。奄美の森は、いつもよりもっとにぎやかになりました。

みんなニコニコ楽しそうです。もちろんへびさんは、真っ白のいつものままで、パーティーにさんかしました。

みんな歌を歌ったりおどったり、とても楽しそうです。楽しいパーティーの中で、イシカワガエルが

言いました。

「みんな、聞いて！実は今日、ぼくたちから、大好きなへびさんに、プレゼントがあるゲコ。さあへびさん、こちらへどうぞ。」

へびさんは、ちょっとはずかしそうに、でも、うれしそうに、ちょこちょこみんなの前に出てきました。

みんなからのプレゼントは、なんと奄美の大島つむぎでした。へびさんは、うれしそうに、そのつむぎを着てみました。

「ど、どう？にあうかなあ？」

へびさんは、ちょっとはずかしそうに、顔を赤くして、みんなに聞きました。すると、みんなは、

「にあう、にあう！とつてもにあつてるよ！」と、笑顔で言ってくれました。へびさんは、大よろこび！へびさんはこのつむぎがとても気に入りました。

それからというもの、みんなにもらった大島つむぎをとても大切にしていって、いつも着ています。

へびさんは、もう白いへびではありません。ステキながらをした、ハブとよばれるへびになりました。今

でもハブは、大島つむぎのような、がらをして、奄美の森で、みんなと楽しく、くらしています。